

社会情報学部

ハンセン病療養所栗生楽泉園スタディーツアー及びガイドブック・映像制作事業

担当学部等 社会情報学部

担当学科等 情報社会科学科・情報行動学科

担当者 西村 淑子 教授・藤井 正希 准教授

◎事業概要

本学部では、昨年度に引き続き、ハンセン病問題の啓発・継承を目的として、草津町にあるハンセン病療養所栗生楽泉園スタディーバスツアーを実施した。

また、ボランティアガイドの質の向上と、ハンセン病問題と栗生楽泉園のことを分かりやすく伝えることを目的として、中高生向けの栗生楽泉園ガイドブックを作成した。ガイドブックの作成は、栗生楽泉園、栗生楽泉園入所者自治会、入所者、元入所者、重監房資料館、ハンセン病資料館、ガイド養成講座修了者の皆様のご指導とご協力を頂きながら、本学部の憲法ゼミ、行政法ゼミの3年生(計6名)が行った。

本学部のハンセン病問題に関する一連の事業は、2013年11月に本学部が主催した笹雄二氏の講演会から始まった。栗生楽泉園の入所者であり、2014年5月に亡くなった笹氏は、詩人であり、ハンセン病国賠訴訟や重監房の復元運動の中心人物であった。映像は、本学部学生9名、医学部医学科の学生1名が、笹氏の生涯を、関係者のインタビューや笹氏の詩を引用するなどして制作したものである。

◎実施事業等

(1) ハンセン病療養所栗生楽泉園スタディーバスツアーを実施した。バスツアーは、一般市民及び本学の学生が無料で参加できるものとし、昨年度本学部が開講したガイド養成講座の修了者がガイドを行った。

10/17(土)参加者20名

10/31(土)参加者40名

(2) ハンセン病問題及び栗生楽泉園に関する中高生向けのガイドブック(4000部)を作成し、ハンセン病療養所、図書館、学校等に配布した。

(3) 栗生楽泉園の入所者であった笹雄二(故人)に関する映像(DVD 1000部)を制作し、ハンセン病療養所、図書館、学校等に配布した。

◎期待される成果

ハンセン病問題は、重大な人権問題であり、また、社会的、政治的、文化的問題でもあり、そこから多くのことを学ぶことができる。例えば、学べば学ぶほど、国家や社会の冷たさや理不尽さを痛感するとともに、そのなかで人権擁護のために闘った人びとの情熱や崇高さを知ることができる。また、この問題の解決に司法が果たした役割を考えると、国家機関における裁判所の重要性が認識され、あるべき国家組織を考える契機ともなる。

この事業に直接関わった学生は、このような広い意味での人権感覚を大いに深めることができたものとする。そこで培われた人権感覚は、社会人となった後も、大いに役立つに違いない。それが期待される最大の成果と言える。また、このDVDとハンドブックは県内の図書館、学校等、様々な公的機関に配布されたことから、それを観たり、読んだりした一般市民、とくに青少年も、かかる人権感覚を身につける良い機会になることが期待される。その成果をぜひ見守りたいと考える。